

月刊 千葉労働



●大きな歴史の転換点!

11・9 全力結集を

アジアのバブルが崩壊した。タイの株価はピーク時の七〇%以上も落ち込み、タイ通貨のバツは五〇%も急落した。そして、このアジア危機を発火点として、ついにニューヨーク株式市場が大暴落。この激震は世界に走り、世界同時株暴落が発生。世界の支配者たちは今この危機に震えあがっている。

万策尽き果てて

戦後の資本主義体制は、十年前のブラックマンデー以降、もつと週れば、第一次石油ショックをきっかけとした七四〜五年恐慌以降、成長の条件を完全に失うなかで、国外市場に侵出し、EC統合とか北米自由貿易協定、「新大東亜協栄圏」などのブロック化政策で激しい火花を散らし、財政政策による人為的な需要創出を行い、金融緩和を行い、実態のない異常な投資経済バブルに走り、…… ありとあらゆるのりきり策を使ってこま

最悪の大不況へ

アジア経済の危機で、日本は戦後最悪の大不況に突入しようとしている。今や日本の輸出の約四割がアジア向けだ。危機の発端となったタイで言えば、貿易赤字の三分の二が対日赤字である。日本の企業がアジアに殺到し、日本の銀行の膨大な融資がバブルをおり、タイの金融機関の不動産融資の四割が不良債券化し、そして崩壊。「世界の奇跡」「世界の成長センター」と呼ばれたアジアはたちまち危機の震源地に転化した。それは、日本の侵略と、「日米通貨戦争」と言われる円とドルのレートをめぐる激しい争闘戦に翻弄された結果に他ならない。

この危機は何よりも日本にはね返る。六〇兆円と言われるバブルの不良債券に加え、日本の銀行のアジア向け融資の約二割、六兆円が不良債券化するという

米バブル崩壊へ

アメリカの株価大暴落に対する評価は、「米経済は堅調で心配材料はない」という意図的な宣伝で満たされている。しかし本当か? 今、世界の経済の実態は、実需取り引きに必要な額の実に百倍近いカネが巨大な奔流となつて世界を駆けめぐっているのが現実だ。行き場のない世界マネーはアメリカ株にしがみつつかない。まさに実体的なカジノ経済に他ならない。

十一・九集會へ

資本主義社会は、利潤を求めて労働者を搾取し、無限に資本を蓄積し、拡大し続ける以外生きることのできない社会だ。今世界には行き場のない過剰な資本・過剰な生産力があふれかえっている。これは資本主義社会にとつて「死の病だ」。

出口を失った資本主義国家は、好むと好まざるとにかかわらず戦争につき進む。それが新ガイドラインだ。日米は激しく利害を衝突させながら、それぞれの思惑をかて、戦争につき進もうとしている。戦争ができる国家の体制がない日本は、来年一月の通常国会に有事立法を上程し、橋本行革を強行し、労働運動を圧殺して「戦争のできる国」への脱皮を図ろうと焦っている。

時代は大きく動き、労働運動の勝負のときが来たということだ。労働運動が潰されず、闘いを守りぬくかぎり戦争などできない。全力で十一・九集會に結集しよう。



特集

金融バブルの悲劇的結末は近い

不良債権問題は根深い。経営不安の金融機関に早期是正と市場の洗礼が追い打ちをかける

世界株価「大暴落」の始まり

香港株が暴落し、世界マネーはアメリカに還流。その米国株価も10年ぶりの大暴落を演じた。日本も構造改革が進まず、株価大暴落。

(原英次郎・木村秀哉、中村稔・田崎静夫記者)